ツネログ

#22

2026年6月号

皆さん、こんにちは。

アンダー世代のAFCアジアカップにおいて今度はU-17男女が頑張ってくれました。U-17女子は決勝で朝鮮民主主義人民共和国に1－5と完敗に終わりましたが、この悔しい経験は必ずや今後に活きるはずです。そしてU-17男子は決勝で中国に3－2と競り勝ち、大会最多となる5度目の優勝を果たしました。

今回女子は中国、男子はサウジアラビアでの開催となり、ともにファイナルを視察しました。ただ単にスタンドで試合を「観る」のではなく、私自身代表チームや選手たちと「接する」ことを大切にしています。

U-17女子の選手たちは試合後のロッカールームでしばらく泣いていました。大切なのはこの悔しさをどうバネにしていくことができるかだと思います。「相手のプレスに対してなぜボールを運べなかったのか自分で分析してみよう」「意識というものはどこまでも高く上げられるから」などとみんなには伝えました。悔しい感情と向き合いながらも顔を上げてくれましたし、彼女たちのこれからが楽しみです。

また男子ではガンバ大阪の先輩でもある小野信義監督から、「PK戦でエンド変更を訴えた2004年のAFCアジアカップ準々決勝ヨルダン戦の話を、試合前の選手たちにしてほしい」とリクエストがあり、急遽資料をつくった上で勝つための逆算、準備という話をしました。彼らの心に少しでも引っ掛かってくれていたら嬉しい限りです。

私もガンバで育成年代を指導した経験がありますが、この世代の選手たちは何かきっかけをつかめばグンと伸びていきます。「育成の日本」らしく、男女ともに決勝に進めたことは選手たちにいい経験になったとともに、今後につながっていくはずだと感じています。

いよいよFIFAワールドカップ2026が近づいてきました。

キリンチャレンジカップ2026 vs. アイスランド戦の2日前に、SAMURAI BLUE（日本代表）の選手たちの前で話をする機会がありました。かつて日本代表の一員としてワールドカップを2度戦った身として、2006年にドイツで勝てなかったことを含めて実際に経験して自分なりに感じたことを伝えたつもりです。

また先日のメンバー発表会見では、アスリートに対して誹謗中傷がないようあらためて呼び掛けを行いました。先に発信しておくことで抑止効果としたいのはもちろんのこと、選手たちを守るというわれわれの決意を示したものでもあります。代表チームには本大会だけに集中して、しっかり戦ってほしいと思います。私もチームと一緒にベースキャンプ地のナッシュビルの施設に入り、選手たちと一緒に過ごしながらしっかりとサポートしていくつもりです。

公益財団法人 日本サッカー協会 会長

宮本恒靖

会長の活動報告

2026年4月17日～5月14日（抜粋版）

4/17（金）

サッカー外交推進議員連盟総会（衆議院第一議員会館）

4/18（土）

AFC U20女子アジアカップタイ2026決勝 U-20日本女子代表 vs. U-20朝鮮民主主義人民共和国女子代表（タイ/バンコク）

U-20日本女子代表がU-20朝鮮民主主義人民共和国女子代表との決勝を1-0で制し、アジア王者に輝きました。厳しい時間帯も続きましたが、選手たちは集中を切らさず最後まで守り抜いてくれました。粘り強さと一体感が光る素晴らしい戦いでした。

4/22（水）

WEリーグ理事会（JFAハウス）

4/22（水）

アクセス・フォー・オールシンポジウム2026（JFAハウス）

誰もがサッカーを「する」「見る」「関わる」ことのできる環境づくりについて、参加者の皆さんと意見を交わしました。今回は、障がいのあるファン・サポーターのスタジアム観戦環境をテーマに、各現場が抱える課題や工夫を共有しました。これを一過性の議論で終わらせず、具体的な改善につなげていきます。

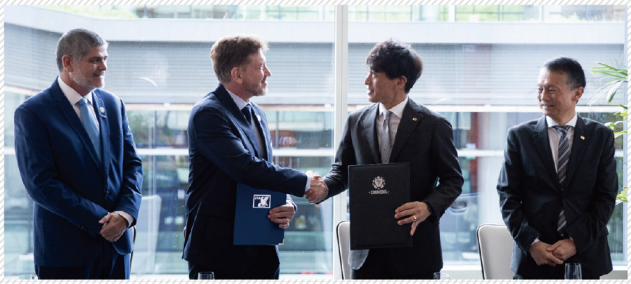
4/28（火）

アジアサッカー連盟（AFC）総会（カナダ/バンクーバー）

AFC総会の開催中、国際サッカー連盟（FIFA）会長およびAFC会長から、FIFAワールドカップ2026への出場を決めた史上最多となる9つの加盟協会への記念盾の贈呈セレモニーが実施されました。また、総会前後には、加盟協会支援やアジアサッカーの発展について各国と意見交換を行いました。国際的な議論に継続的に関わる重要性をあらためて感じています。

4/28（火）、29（水）

南米サッカー連盟、スペインサッカー連盟とのパートナーシップ協定再締結調印式（カナダ/バンクーバー）



世界をリードするフットボール組織とパートナーシップ協定を再締結しました。育成や技術、指導者交流など、多くの学びを共有できる関係性を継続していきたいと思います。世界とのつながりを深め、日本サッカーの成長につなげていきます。

4/29（水）

大陸連盟懇親サッカー（カナダ/バンクーバー）

各大陸連盟の対抗戦を行いました。会議とはまた違った形で交流を深められるのも、サッカーならではの醍醐味です。AFCはこれまでグループステージ敗退が続いていましたが、今回は準決勝に進出。ピッチの中でもアジアの存在感を少し示せたかもしれません。

4/30（木）

国際サッカー連盟（FIFA）総会（カナダ/バンクーバー）

FIFA総会では、”レジェンド”と称される往年の名選手らが登壇し、反人種差別キャンペーンの推進のためのさまざまな活動が報告されました。サッカーが持つ社会的価値への期待も年々高まっていますが、日本としても、競技力向上だけでなく、社会への貢献という視点を持ちながら国際社会と連携していきます。

5/11（月）

JFA×SCO GROUP「FUTURE CAMP」inspired by BLUE LOCK会見（blue-ing!）

海外も含めた新たな才能発掘に挑戦するプロジェクトを発表しました。育成年代の環境や選択肢が大きく広がる中で、日本サッカーの育成も次のステージに入っていると感じます。既存の枠にとらわれないチャレンジから、新しい可能性が生まれることを期待しています。

5/14（木）

9地域代表者会議、JFA理事会（JFAハウス）

理事会トピックス

2026年度第6回理事会が4月28日（火）に書面で、第7回理事会が5月14日（木）にJFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

決議事項

各種委員会 委員選任

第5回理事会で未定となっていた女子委員会と法務委員会、競技会委員会、コンプライアンス委員会の各委員の選任に加え、サステナビリティ・リスペクト委員会の委員1名の追加が承認されました。

なでしこジャパン監督 選任

来年のFIFA女子ワールドカップ出場を目指すなでしこジャパン（日本女子代表）の監督に狩野倫久氏が就任しました。狩野氏は今年4月の国際親善試合・アメリカ女子代表戦で監督代行を務めていました。

フットサル日本女子代表監督 選任

2029年のFIFAフットサル女子ワールドカップ出場を目指すフットサル日本女子代表の監督に、2015年からSWH レディース西宮フットサルクラブを指揮していた上久保仁貴氏が就任することになりました。

北マリアナ諸島サッカー協会への支援

台風4号「シンラコウ」で深刻な被害を受けた北マリアナ諸島について、被災地域の一刻も早い復旧を願い、北マリアナ諸島サッカー協会（NMIFA）に支援金として20,000米ドルを寄付することが決まりました。

報告事項

FIFAワールドカップ2026の分配金、大会規則の改正など

国際サッカー連盟（FIFA）の第36回カウンシル会議が4月28日にカナダのバンクーバーで開催され、FIFAワールドカップ2026の出場48チームの協会・連盟への分配金を15%増の総額8億7100万ドルとすることが決まりました。また、同日開催された国際サッカー評議会特別会議で、①審判員の判定に抗議してピッチを離れる行為、②対立状態の相手に対して差別的、挑発的な発言を隠す目的で口を覆うしぐさの二つがレッドカードの対象となりうるという新ルールが本大会にも適用されることになったほか、累積警告のリセットが、従来の準々決勝終了後に加え、グループステージ終了後にも適用されることが決まりました。

AFCクラブ競技会の加盟協会出場枠

アジアサッカー連盟（AFC）の理事会が4月29日にバンクーバーで開催され、AFCチャンピオンズリーグElite2026/27の出場クラブが24から32に拡大されることに伴い、各国チームの出場枠が決定しました。日本には、ACL Eliteのダイレクト3枠、インダイレクト2枠、ACL Twoのダイレクト1枠が与えられます。

Information

「U-18女子サッカープレミアリーグ」を創設

JFAは、女子育成年代のトップリーグとなる「U-18女子サッカープレミアリーグ」を創設し、2027年4月より開始することを決定しました。WEリーグと連携し、日本女子サッカーの競技力向上と代表強化を図ります。同リーグは東西各8チームの計16チームで構成され、ホーム&アウェイ方式で実施します。※4/23発表

「SAMURAI BLUE祭」をMIYASHITA PARKで開催

JFAは、6月11日～28日に東京・渋谷のMIYASHITA PARKで、「SAMURAI BLUE祭」を開催します。これはパートナー企業の協力を得て実施する取り組みで、会場では、“祭”をコンセプトに、提灯装飾や体験型イベント、フォトスポット、ポップアップストアなどを展開し、初夏の渋谷をチームカラーの青で彩ります。多くの人が集い、一体となって応援することで、SAMURAI BLUEへの応援の輪を広げ、「最高の景色」を共に目指す機運を高めます。※4/22発表

「最高の景色を2026」BLUE WING ACTION～世界に見せよう、応援のチカラ～

JFAは、「最高の景色を2026」に向けた応援アクション「BLUE WING ACTION」の達成（応援総数427万件／2025年11月～26年3月実施）を受け、6月11日の午前0時（現地時間）にニューヨーク・タイムズスクエアでSAMURAI BLUEの応援ムービーを150秒間放映します。集まったメッセージはアメリカのチーム拠点やblue-ing!にも展示します。※4/30発表

「JFA成長戦略2026-2031」を策定

JFAは、2026年から31年を対象とする中長期の指針として「JFA成長戦略2026-2031～サッカーで未来をつくる～」を策定しました。本戦略では、「競技面での成果」「女子サッカーの拡大」「社会的価値の創出」の3つをBIG GOALに設定し、5つの柱と3つの梁からなる全8領域の戦略を通じて日本サッカーの持続的な成長と社会への価値の還元を推進します。※5/8発表

JFA×SCO GROUP「FUTURE CAMP」inspired by BLUE LOCKを始動

JFAは株式会社SCOグループとともに、海外で活動する有望選手の発掘・育成を目的とした「FUTURE CAMP」 inspired by BLUE LOCKを開始しました。本プロジェクトは“海外版ナショナルトレセン”として、日本にルーツを持つ選手に世界基準の技術や「Japan's Way」に掲げる選手像の要素を学べる機会を提供するものです。人気サッカーアニメ『ブルーロック』と連携し、そのコンセプトを取り入れながら若い才能の発掘・強化につなげます。第1回はU-16の選手を対象に、8月にアメリカのカリフォルニアで開催します。※5/11発表

スピークジャパン合同会社とJFAサポーター契約を締結

JFAは、AI英会話サービス「スピーク」を提供するスピークジャパン合同会社とJFAサポーター契約を締結しました。本パートナーシップでは、AI英会話を活用した学習機会を提供し、選手や指導者などサッカーに関わる人材の語学力強化を支援。国際対応力を高め、日本サッカーのさらなる競争力向上につなげていきます。※5/12発表

JFAとグーグル日本法人がJFAソーシャルバリューパートナー契約を締結

JFAは、日本法人のグーグル合同会社と JFA ソーシャルバリューパートナー契約を締結しました。JFAとGoogleがGoogle検索™、Gemini™（会話型生成AI）といった同社のサービスを通じて、 サッカーの普及現場に活用するアイデアを共創することで、サッカーをする人・支える人、それぞれの形で日本のサッカーを応援する方々をサポートすることを目指します。 ※5/14発表

その他の主なニュース

- 「審判交流プログラム」ポーランドより審判員を招聘（4/30発表）
- 次世代型没入応援イベント「三井不動産SAMURAI BLUE 3D EXPERIENCE Presented by SAISON」を5/29からMIYASHITA PARK「or」で開催（4/30発表）
- サッカー日本代表「最高の景色を2026」オフィシャルアンバサダー JI BLUEが歌う公式テーマソング「景色」ミュージックビデオ公開（5/1発表）
- なでしこジャパンの西入俊浩GKコーチが退任（5/1発表）
- ラグジュアリーラゲッジブランドFPM Milanoと「サッカー日本代表オフィシャルトラベルケースプロバイダー」契約を締結（5/1発表）
- サッカーの未来をともに考える『JFAみらい会議』を5/20にblue-ing!で開催（5/12発表）
- 「JFA・キリン ウォーキングひろば」ウォーキングフットボールのキックオフイベントを5/23に高円宮記念JFA夢フィールドで開催（5/13発表）

日本サッカー協会副会長

岡田武史さんをマンマーク!

動画も公開中!

第22回は日本代表を率いて2度ワールドカップを戦い、現在は日本サッカー協会副会長を務める岡田武史さんを密着マンマーク。
FIFAワールドカップ2026開幕を間近に控え、日本代表への期待を語り合います。

名将が明かす森保監督の決意と、「守破離」が根づく日本代表の強み

宮本 森保一監督にとって2度目のワールドカップになります。2度目ならではの強みをどのように感じていらっしゃいますか。

岡田 ポイチ(森保監督)に「夢フィールドに来てください」と言われて日本代表のキャンプに行ったんだよね。前回のカタール大会のころと(チームビルディングの)やり方を変えていて、たいしたもんだと思ったね。

宮本 コーチそれぞれに役割を与えて、練習を任せていますよね。

岡田 欧州でやっている選手たちはいろんなことを知っているし、いろいろな考え方を持っている。それを引き出す意味でもコーチに任せている。監督に言われたら(選手は)言えないものだけど、例えばセットプレーのディフェンスでもコーチと選手たちがこうしたほうがいいなどと話し合っていて、もしやられたとしても「じゃあ、どうする?」って主体的になってくる。ポイチはそれをちゃんと考えてやっている。

宮本 選手たちが主体的になって、責任を感じながらやっていることが強さにつながっている、と。

岡田 当然、監督が方針を出して、細かい注意を出しているとは思うよ。その上で選手たちに当事者意識があるから、うまくいかなくなっても次にどうするかを考える。でも一方で当然、「絶対にこうやれ」って言うこともないといけない。「守破離」の「守」。ボールにプレッシャーに行けと約束事を決めているのに、行っていなかったらちゃんと指摘しなきゃいけない。ミーティングなんかで「もうちょっと行こう」程度じゃダメなんだよ。「守」はその場で言わないと。逆に「破」と「離」のところは「どう考えていたの?」とか「どうしたらいいと思う?」というアプローチ。欧州の指導法を見ていても、ダッシュを10本やると言ったら「どういう効果があるんですか」と選手が聞いてくるでしょ。日本の場合は「黙ってやれ」みたいな指導が多かった。ここの違いが今の日本代表チームを見ていても、随分と変わってきているなと感じているね。

宮本 岡田さんがチームを評価するときというのは、「守破離」があるかどうかを基準としてみるわけですか。

岡田 まず「守」があるかどうかを見るね。たとえば走りの練習で、コーンの外側をちゃんと回っているかとかモラルを見る。コーチを立たせて外側を回らせたって意味がなくて、自然とそうなっている雰囲気や文化をつくらなきゃいけない。

宮本 スコットランド代表、イングランド代表と戦ったKIRIN WORLD CHALLENGE2026を見ても、今の日本代表は「守」がしっかりしているという印象です。

岡田 そうだね、きちっとできている。

宮本 イングランド戦の勝利を岡田さんはどのように感じました?

岡田 気持ち的にも力が入りすぎてもなくて、普通に対等にやっていたね。

宮本 僕は現地で試合後に選手たちとハイタッチをしましたが、"まあ当たり前です"くらいの表情でした。勝ちを狙いに行って、そのとおりに勝ったという感覚なんでしょうね。

岡田 そうそう、技術だ何だというより、そのあたりが昔の代表と一番変わってきた部分だと感じるよ。

宮本 日本代表にとってFIFAワールドカップ2026は、どんな大会になると思いますか。

岡田 グループステージを突破しても今回からベスト32になって、おそらくそこでブラジル代表かモロッコ代表が出てくるでしょ。モロッコは今、かなり強いよ。ここを突破しないとベスト16に入れないんだから大変。ポイチともちょっと話をした。3位で抜けたらいいかもしれないけど、(3位の場合は)抜けられるかどうかも分からないし、何よりそんな中途半端なことをしたら大きな痛手を食らうかもしれない。だからもう行くしかないと。腹を括っているよ、ポイチは。

宮本 昨年12月の抽選会で森保さんの隣にいて、オランダ代表をはじめ対戦相手が決まっても「いずれにしても当たるから」くらいの心境で、落ち着いていました。これも2度目の経験なんでしょうね。

岡田 ケガ人が多いわけだけど、「岡田さん、そのときにいるメンバーでやるしかないですよ」って、見ていても頼もしいよ。ベスト32でブラジルかモロッコに勝ったら、ファイナルに行けるんじゃないかなって俺は思っている。

宮本 ありがとうございます。最後になりますが、JFA会長として2期目に入ることになりました。日本サッカーの未来をつくるための挑戦と実行をしていきたいと考えております。

岡田 若いツネがやっていくことがベスト。日本の社会自体、若い人がもっとやっていかなきゃいけないし、JFAが率先して変えていってもらわなきゃいけない。ただ、若くて経験も足りないから1期目は気が利かない部分もあったりしたけど、やっていく中でかなり変わってきた感じはある。会長だけじゃなく執行部の若いメンバーたちも含めてとても良くなってきているし、2期目は安定した結果を出すんじゃないかなと期待しているよ。若さで行き過ぎてしまわないように、私が(副会長として)注意を払う必要はあるかなとは思っているけど(笑)。

宮本 「JFAは何のためにあるのか」という岡田さんが言うわれわれの原点、立ち位置を念頭に置いた上でしっかり運営していきたいと考えています。本日はありがとうございました。

岡田武史(おかだ・たけし)

1956(昭和31)年8月25日生まれ。大阪府出身。
古河電気工業でプレーし、日本代表として国際Aマッチ24試合に出場。引退後は指導者に転じ、日本代表監督として1998年、2010年のFIFAワールドカップに出場、2010年大会でベスト16進出。Jリーグでは横浜F・マリノス(当時)でJ1年間優勝などを達成。2014年よりFC今治でクラブ経営に携わる。2016年~18年および2022年~JFA副会長。2019年、日本サッカー殿堂入り。

※次号は2026年7月発行予定/本誌クレジット表記のない写真:©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE

JFA DREAM 夢があるから強くなる
発行:公益財団法人日本サッカー協会
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル 電話:050-2018-1990 HP:https://www.jfa.jp